

JA全農ウィークリー WEEKLY

4
5
面

JA全農北日本くみあい飼料(株)直営

「藤沢牧場」が農業白書に掲載！

2面

日本産農畜産物をUAEアブダビでアピール



平成29年度農業白書に生産基盤の維持拡大事例として掲載されたJA全農北日本くみあい飼料(株)直営「藤沢牧場」の従業員の皆さん



UAEアブダビで日本産農畜産物の輸出についてプレゼンを行うJA全農インターナショナル(株)の川崎浩之社長(2面)



全農を訪れ日本代表に決まったことを報告したカーリング女子「LS北見」の選手5人(8面)

2 香港で日本産農畜産物PRする
石川佳純選手の広告掲出(広報部)

3 JAブームイン(JAみどりの)

6 県本部だより(千葉県本部)

7 青果情勢(園芸部)

8 カーリング女子「LS北見」
日本代表決定を報告(広報部)

JAタウンショップ紹介

正直やまぐち(JA全農やまぐち)



自己改革 笑味ちゃん

JAグループは、自己改革を実践しています。『JA全農ウィークリー』では、自己改革に関する記事に自己改革の「笑味ちゃんマーク」を表示していきます。



News!



日本産農畜産物をUAEアブダビでアピール!

輸出したイチゴなど日本産青果物の試食会開催

輸出対策部・JA全農インターナショナル(株)



日本産農畜産物の輸出についてプレゼンを行う川崎社長



日本産イチゴをUAE閣僚と試食する安倍首相④

フォーラムには安倍晋三首相の他、両国の政府関係者と民間企業幹部が参加。日本のエネルギー関連企業や商社のトップが登壇する中、同社の川崎浩之社長は「Tasting is believing (百聞は味わうにしかず)」をテーマに、今後中東諸国に対する日本産農畜産物の輸出を推進するとしたプレゼンを行いました。

フォーラム終了後、安倍首相の案内で、UAEの閣僚など参加者に、同社が輸出した日本産青果物を試食していただきました。栃木県のイチゴ「スカイベリー」、静岡県の高糖度トマト「アメラ」と「クラウンメロン」、宮崎県のマンゴー「太陽のタマゴ」が供され、参加者は日本産青果物の食感や甘み、香り、見た目の繊細さに感激し、食品関係者からも「すぐ見積もりが欲しい」とうれしい依頼をいただくことができました。

輸出対策部とJA全農インターナショナル(株)は4月30日、アラブ首長国連邦(UAE)アブダビ首長国で開かれた「日本・UAEビジネスフォーラム」で、日本産農畜産物のPRを行いました。



News!



香港に日本産農畜産物PRする石川佳純選手の広告

海外での掲出は初めての取り組み

広報部

全農所属の卓球女子日本代表石川佳純選手が出場したITTFワールドツアー・香港オープンに合せて、5月26日〜6月1日、香港市街中心部の大型ショッピングモール「タイムズスクエア」に向かう地下鉄駅構内に、日本産農畜産物をPRする石川選手の広告を掲出しました。全農が石川選手の広告を海外で掲出するのは初めてです。

全農グループ(全農とJA全農インターナショナル株式会社)は、香港への輸出拡大に向け、4月23日に香港に事務所を開設しました。香港の消費者の方々に全農ブランドを広く知っていただくため、卓球ファンの多い香港でも人気の高い石川選手の広告を掲出。石川選手が中国語で日本の食材をPRするメッセージ動画も、ホームページで公開予定です。

全農グループは、

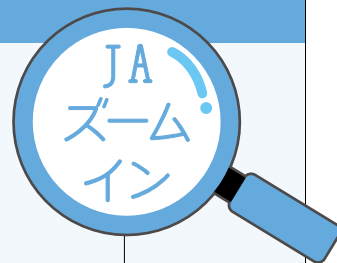
今後さらに海外のeコマースで日本産農畜産物の販売を強化していきます。



ITTFワールドツアー・香港オープン後には石川選手本人も訪れました

地下鉄駅構内に掲出した日本産農畜産物をPRする石川選手の広告





集出荷調製施設を整備し

園芸振興を積極的に展開

JAみどりののは平成8年に鹿島台、松山、涌谷、南郷、田尻、小牛田の6町（1



出荷に向けて早朝から収穫作業

市2町）にまたがる10JAが、宮城県で初めて広域合併し発足したJAです。農業は、水田を中心に園芸・畜産を組み合わせた複合型経営が主体となっており、健康や環境に配慮した環境保全米をはじめとする特別栽培米の生産拡大を図



機械を使い効率的な作業が進む



移植機を使い作業がはかどる移植作業

るとともに、園芸振興を積極的に展開しています。

ブランド確立、水田の有効活用で青ネギ導入

JAの新たなブランドの確立と水田の有効活用による所得向上を目指し、平成27年度から青ネギ栽培が始

JAみどりの（宮城県）



概要

平成30年3月31日現在

正組合員数	1万2240人
准組合員数	3693人
職員数	402人
販売品取扱高	117億3千万円
購買品取扱高	51億8千万円
貯金残高	1065億円
長期共済保有高	4621億3千万円
主な農畜産物	米、大豆、小ネギ、ホウレンソウなど

まりました。平成29年7月には、集出荷調製施設が大崎市鹿島台に完成しました。これまで面積拡大に向けた機械化体系の確立を掲げてきたJAの新たな戦力となっています。空調や予冷庫を完備し、夏場でも品質の良い青ネギの出荷が可能となっています。

育苗は子会社、移植や調製選別をJAが受託

葉鞘部が長い白ネギに比べ、青ネギは葉身部が長いのが特徴です。露地栽培で年3回の収穫が可能で、高収量・収益が見込めます。JAでは、生産者が栽培に専念できるよう、育苗はJA子会社の「株みどりのみらい」が請け負ってい

JAみどりの青ねぎ集出荷調製施設 落成式



平成29年7月に集出荷調製施設が完成。テープカットをする大坪輝夫代表理事組合長㊤と関係者ら

ます。また、畝立てやマルチなどの作業機械を貸し出し、移植作業や調製選別をJAが受託し負担軽減を図っています。

JA全農北日本くみあい飼料(株)直営 「藤沢牧場」が農業白書に掲載!

後継者育成や肥育農家の経営安定への寄与が紹介される

JA全農北日本くみあい飼料(株)直営の和牛繁殖農場「藤沢牧場」は、5月22日に農林水産省が公表した「平成29年度食料・農業・農村白書」で、「後継者育成や肥育農家の経営安定の役割を果たす繁殖農場」として紹介されました。

「JA全農北日本くみあい飼料(株)」

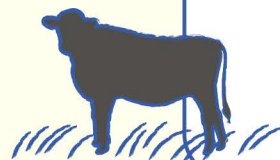


藤沢牧場の概要(4月30日現在)

所在地	岩手県一関市藤沢町黄 ^{きのみ} 海字深堀
敷地面積	約26 ² ha(東京ドームの5.6倍)
主な事業内容	和牛肥育素牛の生産
飼養頭数	繁殖牛 2728頭 子牛 1650頭 肥育牛 721頭 種雄牛 4頭 藤沢牧場合計 5103頭 肥育委託 1500頭(6県12農場) 総計 6603頭
従業員数	41人

大規模繁殖農場で 和牛肥育素牛生産

和牛生産は、繁殖牛(母牛)を飼育して子牛を生産する繁殖農家と、子牛を購入して出荷まで育てる肥育農家による分業が



多くを占めますが、このうち、小規模な農家が多い繁殖経営では、高齢化などで戸数が減少し、近年の子牛価格の高騰を招いています。

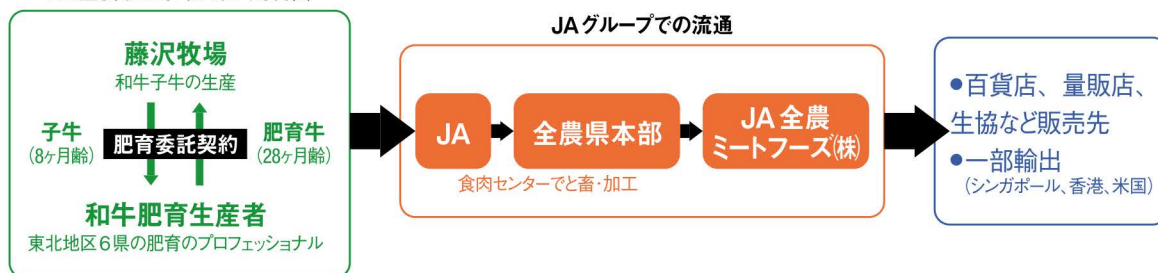
そうした中、JA全農北日本くみあい飼料(株)は平成26年、岩手県一関市藤沢町で大規模繁殖農場「藤沢牧場」の運営を始めました。現在、約2700頭の繁殖牛を飼育し、年間約2000頭の和牛子牛を生産しています。産まれた子牛は、東北6県12戸の肥育農家で委託肥育され、JAグループ二体の事業で生産から販売まで行っています。

地域と一体になった生産

藤沢牧場は、北上山系の水と、東北産の稲わら、WCS(稲発酵粗飼料)と全農の輸入乾牧草、そして自社工場で製造した安全・安心の配合飼料で牛を育てています。配合飼料には、東北産飼料用米を使用しています。発生する堆肥は、地元の耕種農家や震災復興(津波被災地の土壌改良)に使用されるなど、東北地区の耕畜連携にも大きく貢献しています。

藤沢牧場の委託肥育事業フロー図

JA全農北日本くみあい飼料(株)



東北和牛のロゴ



ZEN-NOH TOHOKU-WAGYU

東北和牛

「東北和牛」としてブランド化「AG/SUM2018」でローストビーフを試食販売

藤沢牧場で産まれた子牛を東北6県の農場で肥育した和牛は、「全農東北」プロジェクトで「東北和牛」としてブランド化されています。（商標登録出願中）

食の安全や健康志向に対する関心の高まりを受け、これまで追求されてきたサシ（脂肪交雑）に偏重せず、和牛の風味と肉質を堪能できる赤肉が特徴です。

6月11～13日に東京・日本橋で開かれる「AGRITECH SUMMIT (AG/SUM) 2018」では、全農の物販ブース「マルシェ」で、「東北和牛」のローストビーフ

フが試食・販売されます。
農水省視察をきっかけに
農業白書掲載につながる

藤沢牧場は以前、農水省の視察を受けたことがあり、そのことをきっかけに農業白書での紹介が検討され、同社での聞き取り取材のうえ、このたびの掲載となりました。

白書では、藤沢牧場が後継者育成の場になっていることや、肥育委託により飼料・枝肉などの相場変動のリスクをJA全農北日本くみあい飼料(株)が負うことで、肥育農家の経営安定に寄与していることが紹介されています。

JA全農北日本くみあい飼料は、これからも東北地区畜産農家の経営安定のために取り組んでいきます。



藤沢牧場で飼育されている和牛

JA全農北日本くみあい飼料(株)直営の和牛繁殖農場「藤沢牧場」の従業員の皆さん

農業白書で紹介された「藤沢牧場」の取り組み

事例

後継者育成や肥育農家の経営安定の役割を果たす繁殖農場（岩手県）

JA全農北日本くみあい飼料株式会社は、東北6県の飼料供給シェアの3割を占める飼料会社です。同社は平成26（2014）年に岩手県一関市の1万頭規模の肥育牧場を買受け、同社直営の「藤沢牧場」として黒毛和牛の繁殖経営を開始しました。

26haの敷地に牛舎45棟を備えた同牧場では、繁殖牛2,700頭、子牛・肥育牛2,300頭が飼養されています。従業員数は獣医師や家畜人工授精師等を含め42人で、将来実家に戻る若い後継者の従業員にとっては飼育技術を習得する場にもなっています。

8か月齢になった子牛は、肥育農家に管理委託が行われ、現在、1,500頭の子牛が東北6県の12戸の畜産農家で管理されています。委託を受けた肥育農家は肥育料を受け取り、飼料・枝肉等の相場変動のリスクは同社が負うことで、肥育農家の経営安定にも寄与しています。

同牧場では、繁殖牛を3千頭規模とすることを目指しており、東北における畜産生産基盤の維持・拡大につなげたいとしています。



藤沢牧場の全景

県本部 だより

千葉県本部



JA・行政・関係機関と連携し 県産農畜産物の輸出を推進

マレーシア向けサツマイモで高い評価

千葉県本部は、県内JA・行政・関係機関などと連携し県産農畜産物などの輸出促進に取り組んでいま

す。本格化したのは平成27年度からで、平成29年度の輸出額は、約4000万円（前年比123%）となり、

高い評価を得ており、輸出額の大半を占めています。

**JA職員、生産者と
現地で共に販促活動**

東南アジア市場を中心にサツマイモ・梨などの取扱量を着実に増やしています。特に、マレーシア向けサツマイモが現地での

輸出経験の浅い千葉県本部は、輸出に取り組む産地・生産者を増やすことで、効果的に事業を進める必要があります。そのため、シンガポールやマレーシアでの販促活動では、



タイ王国で梨フェア開催（平成29年9月）



マレーシアでのさつまいもフェア（平成30年1月）

JA職員はもちろん生産者と共に参加し、現地での評価の高さを実感し、輸出を身近に感じられることに重点を置いています。生産者の所得向上と産地の活性化につながるために、地道に継続して取り組んでいます。

**産地間の連携強化し
継続的に試験輸出実施**

今後は販売が軌道に乗りつつある東南アジアへの



タイ王国でのトップセールスでPRする林茂壽運営委員会会長（平成30年2月）

輸出の実施に継続的に取り組みます。

販売を重点に、JA全農インターナショナル(株)をはじめとする関連機関と連携し、これまで輸出を実施してきた品目の消費拡大とともに、新たな輸出品目の開発を進めます。

また、成田市場が2020年度に輸出拠点施設として生まれ変わります。千葉県本部としても県内農畜産物の、効率的な輸出の実施へ向け、産地間の連携と試験

直近の主な活動

- 平成29年9月
マレーシア・タイ王国で梨フェアを開催
- 平成30年1月
マレーシアで、さつまいもフェアを開催
- 平成30年2月
タイ王国での千葉県知事トップセールスに農産ミッション団として参加し、現地小売店舗におけるフェア開催やバイヤーとの商談などを実施
- 平成30年5月
台湾の「桃園農業博覧会」へ参加し、切り花のPRを実施

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜

関東や準高冷地が出荷の中心

概況

6月は、出荷の中心が関東から東北・高冷地に切り替わっていく時期となります。

キャベツは、千葉・愛知が終盤を迎え、群馬や茨城が出荷の中心となります。群馬や茨城は前進出荷が進んでおり、平年を上回る出荷量を見込んでいます。

ハクサイは、茨城から長野などに切り替わります。茨城は前進出荷から切り上がり早い予想です。長野と群馬は生育順調で平年並みの出回り見込み。6月下旬にはまとまった出荷量となってくるでしょう。

レタスは長野と群馬が中心の出荷となります。九州産地の切り上がりは早かったものの、高冷地産の出荷は前進傾向にあり、6月は豊作であった前年並みを見込みます。

ダイコンは、千葉などから青森・北海道に切り替わります。千葉産は平年よりも早く切り上がりに向かうも、後続の青森は4月の冷え込みから生育遅れがみられます。出荷量は前年よりやや少ないものの、平年並みの出荷量となる見込み。

ニンジン、は、千葉などから青森と北海道に切り替わります。千葉は前進傾向であるものの、太りも良く生育は良好。青森と北海道も平年並みの作柄を見込むため、前年並みの出荷量を見込みます。

トマトは西南暖地が終盤を迎え、関東・東北産地からの出荷が中心となります。前年は低温により不足感がありましたが、今年は平年並みの出荷量となる見込みです。

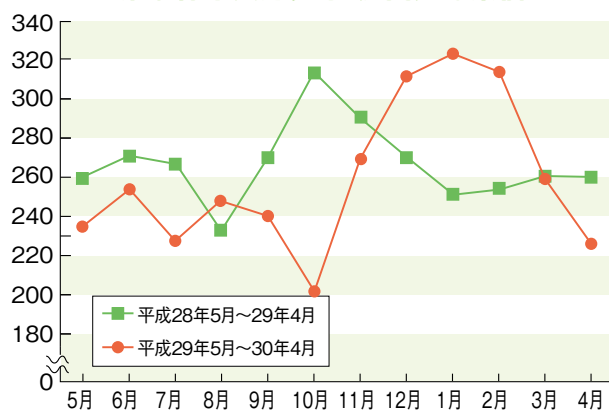
キュウリは、関東産地から東北産地中心の出荷に切り替わります。関東産地は前進出荷から切り上がりは早まるでしょう。出荷量は前年並みを見込みます。

ナスは、高知や九州産地が中心の出荷となります。西南暖地からの出荷は前進傾向となり、関東産は月末から増量となるでしょう。出荷量は前年並みを見込みます。

店頭

キャベツ、レタスなどの春物野菜中心の売り場構成になっています。気温の上昇に伴い、サラダ商材の売り場も拡大しています。

円/㎏ 東京都中央卸売市場 国産野菜価格



主産県
だより

5月はトマト・ミニトマト、レタス、イチゴ、ブロッコリー、夏秋ピーマンの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的に開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。



果 実

夏の果実が本格化

概況

6月は、スイカ、メロンなどのウリ類に加えて、ハウスミカン、ビワ、オウトウ、桃、ブドウなど、夏果実の出荷が本格化し、国産果実の品目数が増えてくる時期となります。

スイカは、熊本・千葉・茨城などが中心の出荷となります。5月の連休後の低温により、6月の出荷量は前年をやや下回る見込みです。

メロンは、茨城・熊本などの露地物の出荷が本格化します。4月の好天と気温高の影響で生育はやや前進傾向となっており、玉肥大も良好です。出荷量は概ね前年並を見込みます。

ハウスミカンは、愛媛・熊本などが中心の出荷となります。生育は順調で、出荷量は前年並の見込みです。

オウトウは、山形が中心の出荷となります。生育は前進傾向で「佐藤錦」は中旬からピークとなり、「紅秀峰」も下旬から出荷開始となる見込みです。出荷量は前年を上回る見込みです。

ビワは、長崎・千葉が中心の出荷となります。出荷量は、多かった前年を下回る見込みです。

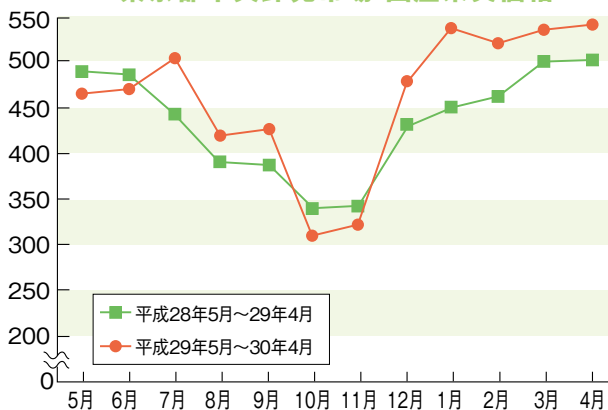
桃は、山梨が中心の出荷となります。ハウス物が上旬くらいまで出回り、その後、露地物の早生品種の出荷が始まります。出荷量は前年を上回る見込みです。

ブドウは、島根の「デラウェア」を中心に、山梨や岡山の大粒品種（巨峰、ピオーネ、シャインマスカットなど）も出そろってきます。出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

店頭

国産果実の品目数量が増えてくる時期ということもあり、売り場も華やかになってきます。週替わりで、さまざまな品目の催事・セールスが行われます。

円/㎏ 東京都中央卸売市場 国産果実価格



カーリング女子「LS北見」 日本代表決定戦に勝利

選手が全農を訪れ
報告会開催

全農特別協賛の「全農2018パシフィックアジアカーリング選手権大会日本代表決定戦」が5月18~20日、北海道で開かれ、LS北見が3連勝で女子日本代表となりました。5月24日に5人の選手(本橋麻里選手、鈴木夕湖選手、藤澤五月選手、吉田夕梨花選手、吉田知那美選手)が東京・大手町の全農を訪れ、日本代表獲得を報告しました。

【広報部】

選手の皆さんは、今大会のテーマを「大感謝祭」とし、スポンサーやファンの方々へ今シーズンのさまざまな支援や声援への恩返しとの思いを込め戦ったと話されました。

大会期間中は選手の栄養補給に「さくらんぼ」「びわ」「ライスジンジャーミルク」など食材を提供した他、勝利チームに副賞として「北見牛100㍑」「タマネギ100個」を贈呈しました。来所した5月24日は藤澤選手の誕生日で、国産食

材にこだわったサプライズなバースデーケーキを用意し、藤澤選手をお祝いしました。LS北見は長いシーズンを終えオフに入りますが、次のシーズンに向けたさらなる飛躍を掲げ、この日の報告会を終えました。

全農は、「ニッポン人の活躍を『ニッポンの食』で支える。」のスローガンのもと、海外で活躍するアスリートを今後も「ニッポンの食」を通じてサポートしていきます。



日本代表決定を祝い神出元一理事長が花束を贈呈



山崎周二専務が北海道で行われた代表決定戦で副賞を贈呈

アグ サム
「AG/SUM 2018」に
ご来場を!

6月11日~13日、最新の農業技術が集う「AGRITech SUMMIT (AG/SUM) 2018」が東京・日本橋で開かれます。

JAグループとその取引先は無料(広報部配布のチラシ持参)ですので、ぜひご来場ください。

6月11日(火)16:30~17:15には神出元一理事長の講演などがあります。また、セミナー、展示等に参加します。

お問い合わせは、全農広報部広報企画課(TEL03-6271-8055)まで。

「AG/SUM 2018」
ホームページはこちら



JAタウン
ショップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

正直やまぐち(JA全農やまぐち)



JAタウンは
こちらから



萩たまげなす(2本入り1ケース、1*㍑).....2100円

山口県の伝統野菜「萩たまげなす」をご紹介します!

山口県の方言で「びっくりする」とか「驚く」ことを、「たまげる」と言います。「萩・長門地域でとれるたまげるほどデカいなす」がそのままネーミングとなって「萩たまげなす」と命名、500g以上のものを「萩たまげなす」として出荷しています。

見た目の大きさととは裏腹に、きめ細やかな肉質で、とろ〜りとろけるような食感です!

「百聞は一見にしかず」です! どうぞこの機会にご賞味ください。

なお、ご紹介した商品は、6/22(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。

商品代金の他、クール代、配送地域によって、送料がかかります。ご注文期間を過ぎると価格や送料が変わる場合があります。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。